



南の島に生きる

ー「贈与」と「交換」でつながる島嶼の地域社会ー

Living in the Pacific Islands: A connected society through "gift" and "exchange"

紺屋あかり Akari, KONYA (京都大学東南アジア研究所 連携助教)

1. 研究の背景

東南アジア・太平洋の島々は、およそ1世紀に及ぶ複数国からの植民地経験を経て1950-90年代に独立した、**島嶼の新興国**である。国民国家形成期において、島に生きる人びとはどのような生活戦略を立てているのだろうか？

南の島の生活は、日本とどう違うの？



➤ 島嶼の新興国の今日的課題

- ー経済的自律、宗主国への経済的依存からの脱却
- ーアジア太平洋地域内、及び宗主国への「移動」に伴う多文化共生への対応
- ー地球温暖化に伴う海面上昇など急激な環境変化への対応

1. 独立後、アジア太平洋の島嶼地域社会は、グローバル化に対応しつつ変化し続けている
2. その際、世界的潮流（グローバル化）を地域社会の文脈に取り込みつつ、当該地域独自の生活戦略を生み出している

ポイント

島嶼の生活戦略にみられる、**グローカリゼーション** (global+local) の状況を捉えることが重要！

2. 発表内容

(ア) 贈与にみるパラオの地域社会 ミクロネシア諸島パラオ共和国

(紺屋あかり Akari, KONYA 京都大学東南アジア研究所 連携助教)

GDP世界下位第4位パラオ、でも一人当たりGDP (6000ドル) はオセアニアでダントツ。なぜ?!
パラオの固有通貨って何だろう? 鼈甲の皿と石のネックレスに隠された価値とは?!
パラオのローカル経済の仕組みとは?

(イ) 獣肉交換でつながる森と都市 マレーシア・ボルネオ島

(佐久間香子 Kyoko, SAKUMA 京都大学東南アジア研究所 連携研究員)

東南アジアにおける「経済の優等生」マレーシア

でも、熱帯雨林に暮らす人々のくらしと経済はどうなってる?

(ウ) 水産資源を介してみる地域社会 インドネシア・スラヴェシ島・マルク諸島

(古川文美子 Fumiko, FURUKAWA 神戸大学人間発達環境学研究科 特命助教)

「水産資源」を生み出す基盤となる環境を保全を考えることは、そこに暮らす地域住民の生活と「資源」の関わりを通じた社会環境を知ることが重要です。

3. 調査地・調査方法



島の暮らしを覗いてみよう!



ポイント

長期フィールドワークによる実証的研究!

4. 事例の検証

(ア) ローカル経済にみる島嶼の地域社会：パラオのローカル経済の仕組みを解明する！

1. 現在の太平洋地域島嶼国の経済の特徴

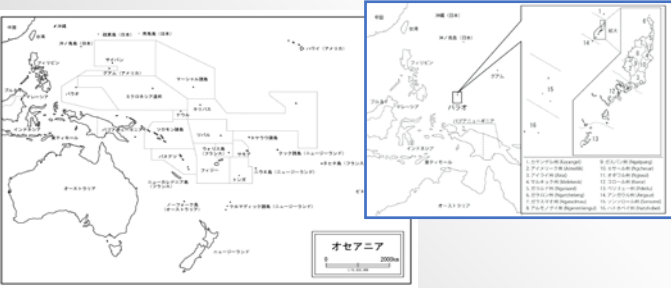
* MIRAB型経済 (Bertram, I.G. and R.F. Watters, 1985)

- MI (migration: 移動)
- R (remittance: 送金)
- A (aid: 援助)
- B (bureaucracy: 官僚制)

<問題点>

1. 宗主国からの援助と海外移住者からの送金で成り立つ不安定な国家経済。
2. 独立後もポストコロニアルの図式からなかなか脱出できない。

→海外に暮らす国際的親族ネットワークを活用する、国境を越えたビジネスへの展開が今後の太平洋地域の経済安定への鍵？！

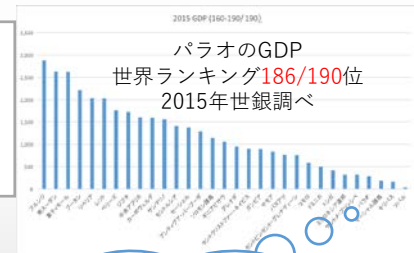


2. パラオの経済は、今？！

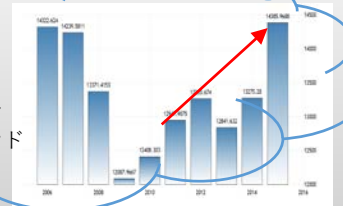
主な歳源：コンパクトマネーと観光業

独立（1994年）以降、今日まで米国からの潤沢な資金援助（国財のおよそ7割）を受けている。1994-2009年の15年間で総額4億5千万ドル（およそ460億円）

しかし、一人当たりGDPをみると6000ドルを超えていて、太平洋島嶼国の中では飛び抜けて高い！



一人あたりGDP
オセアニア第3位
(世界では45位)
1位オーストラリア
2位ニュージーランド
3位パラオ



資源も少ないパラオで、どうやって富が生み出されているのか？

3. パラオで富を生み出す方法とは？

固有通貨は、生活に欠かせない！
石（ウドウド：女財）、鼈甲の皿（トルック：男財）

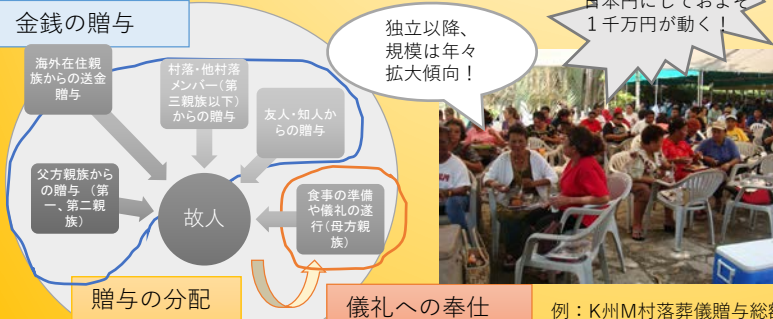


パラオの経済を知りたいければ、シューカーンに行け！

シューカーン (Siukang) とはなにか？

(シューカーンは日本語の「習慣」からの借用語)
葬送儀礼や第一子誕生祝いなどの伝統的儀礼と、その際行われる親族間贈与のことを総称してシューカーンと呼ぶ。パラオ独自の文化・社会システムで、近年は独立以前より規模が拡大している。

シューカーン贈与モデル図 (葬送儀礼)



- ▶シューカーン参加者は一度に200～500名以上
- ▶一人平均月2回以上はシューカーンに参加
- ▶第一、二親族300ドル前後の贈与
※国家公務員の給与月額半分の半分に当たる
- ▶第三親族は、一人あたり20～50ドル
- ▶年々贈与額は、上昇傾向にある

・なぜ贈与するのか？

親族内で財を循環させて、富を分配しているから。必ず自分の元に帰ってくるという信用取引に利点を見出している。

シューカーン経済とは、たくさんの村落・親族メンバーが参加する贈与と分配の連続に成り立つ

「還元型保険」
「ワットワーク貯蓄」

4. まとめ：シューカーンの利点と弱点

- ・シューカーンの強み（富の分配システムの確立）
母系社会システムと伝統的慣習を基礎としているため、市場に左右されない
- ・シューカーンの弱点（経済的自律・発展への課題）
規模拡大に伴う「シューカーン貧乏」の出現。贈与が生活を圧迫している

ネットワーク貯蓄の行く末とは？

贈与ネットワークを基盤とする、
国境を越えたビジネス展開への可能性

獣肉交換でつながる森と都市：マレーシア・サラワク州

佐久間 香子（京都大学 東南アジア研究所）

科研費
KAKENHI

研究スタート支援「東南アジア島嶼部におけるリーダーシップの
正統性に関する比較研究：ボルネオを中心に」
(課題番号15H06301)

東南アジアにおける「経済の優等生」マレーシア でも、熱帯雨林に暮らす人々の経済はどうなってる？

サラワク州（2015年現在）

面積：124,450km²

人口：約270万人

GDP：10,741,000ドル (per capita)

①背景：マレーシアの経済成長を支えてきたサラワク州の天然資源

〈1990年〉

マレーシアGDPの51%がサラワクから
輸出される木材、原油、天然ガス

〈2000年以降〉

- ・ アブラヤシ・プランテーションの拡大
(東南アジアに1,600万ha以上)
- ・ 製造業・観光などのサービス業の成長
出展：Department of Statistics, Sarawak (2007)

残された熱帯雨林の国立公園化
→観光開発による現金経済の台頭
→自家消費目的の森林利用の制限

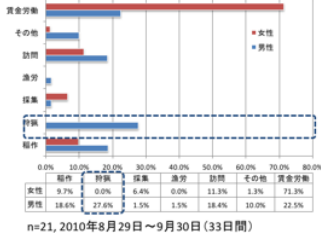


グモン・ムル国立公園（1974年 国立公園指定
Gunung Mulu National Park 2000年 世界自然遺産）



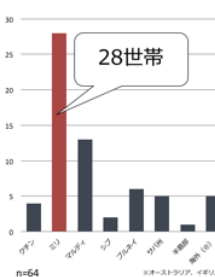
② 集落の生業経済活動

集落の観光産業（ほぼ全世帯）



③ 都市にまたがる生活圈

地域別の村落外居住世帯数
2010年現在



都市への人口流出の背景

観光事業と空路の発展

1. ムル集落の人口増加後に都市への人口流出加速
2. 学校教育への関心の高まり
3. 医療：生と死を迎え入れる都市



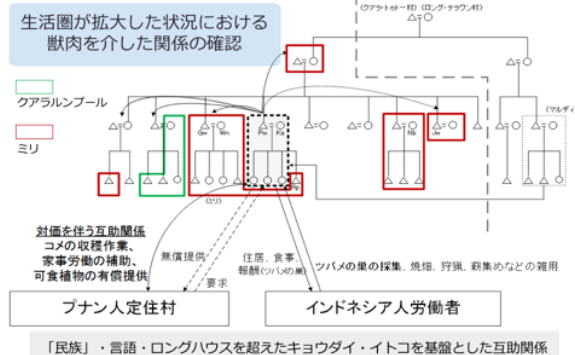
生業利用の制限と観光産業による現金経済の浸透にともない衰退に向かう「伝統的」生業活動の中で、狩猟だけが活性化する逆説的状況

④ 獣肉交換と世帯外労働力



観光開発の一環として
空路に恵まれた集落には、
村や都市に拡散した村人が頻繁に往来するようになった。

空路で移動するのは人だけではない：獣肉も空を飛ばす！



⑤ まとめ

グローバル化に回収され切らない人々の生き方

1. 狩猟に伴う代替不可能な楽しみがある。

生活するために賃金労働をするというよりは、狩猟ができる森で生活するために賃金労働を選択している。

2. 観光開発で発展したインフラを利用して、獣肉を離れて暮らす親族に惜しみなく贈与することで、親族関係の再確認を図る。

(ウ)水産資源を介してみる地域社会

東南アジアの海は熱帯林に被われた島が無数に散在する多島海



マングローブ帯

東南アジアの海域に住む人々にとって、居住の場であり、交易の場であり、生産の対象

東インドネシア島嶼部は縦横の港ネットワークで結ばれ、巨大権力を生み出すことなく海域のネットワーク国家群を形成してきた



サンゴ礁

海域環境の多様性

生業形態の多様性

豊かな水産資源

華人ネットワーク

水産資源の多くは原料のまま、あるいは付加価値の低い状態で国内外の市場に流通

流通システム末端の零細漁民は脆弱な状況



ウミガメ



エビ養殖



海藻養殖



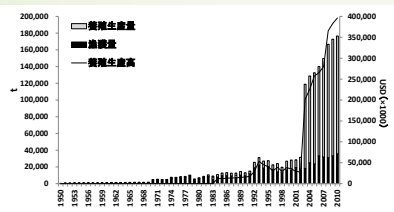
イセエビ

「水産資源」を生み出す基盤となる環境を保全を考えると、そこに暮らす地域住民の生活と「資源」の関わりを通じた社会環境を知ることが重要！



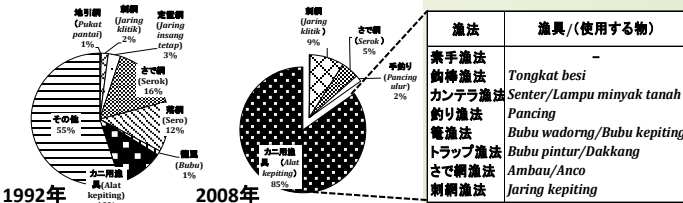
ノコギリガザミ

■ 国際市場におけるノコギリガザミの需要



国際市場におけるノコギリガザミの需要拡大にともなって、生産地での資源としての価値も高まっていった (FAO, 2010)

■ ノコギリガザミ漁法と漁具の変化



ノコギリガザミの漁撈活動は、市場における需要拡大により混獲からより特化した漁法に変化

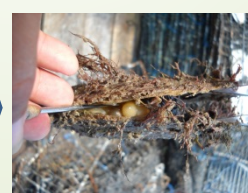
国際市場の価値の変化は、生産地の流通システムや漁労活動の変容させていく。



真珠養殖

養殖真珠のグローバル化は真珠の価値を変えた

■ シロチョウガイの真円真珠養殖



■ マベガイの半円真珠養殖



日本企業が撤退後、シロチョウガイ・マベガイともに零細規模の真珠養殖業者が増加

集荷と輸送には華人のネットワークが大きく関わっている

グローバル化が著しい今日、生産地社会を外部世界との関係でとらえなおすことが重要であり、流通や消費地社会を併せた検討するが必要

東インドネシア島嶼部の新たな資源管理と環境保全に関して華人ネットワークに注目する必要性

5. まとめ



島嶼の地域社会とは？

- ✓ 市場原理とは異なる固有の地域原理で、
富を生み出している！
→ 富の分配と共有システムの構築
- ✓ 様々な民族・地域・親族集団が形成されている！
→ ハイブリッドなネットワークの形成
- ✓ 太平洋の島々の環境変化に対応は、伝統的知識が生か
されている！
→ 在来知の活用

「贈与」と「交換」によって
生存基盤を強固にし、
地域独自の方法でグローバル化社会に適応している
太平洋島嶼にみる、新しい国民像！

6. メモ（コメントや感想を自由にご記入ください）